
離見沢駐在所物語

すけかく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雛見沢駐在所物語

【Nコード】

N9282H

【作者名】

すけかく

【あらすじ】

雛見沢駐在所に赴任した元機動隊員、今島人護巡査部長、赴任した人護が直面したのは、少女の虐待事件、村を狙う巨大な陰謀だった。

ブローグ

ブローグ

父親がやったことは、間違いじゃないと思った。
いや、今も信じている。

「いいか、駐在警官はどんなことがあっても中立を貫かなければならいし、村の人全員を守るのが仕事だから」

親父はその三日後、村八分目になった親子を護って殉職した。

その家族は村のリゾート開発に賛成したがために村八分目になった。

今思えば村八分目になった後も変わらずに、接していたのは、親父だけだった。

赴任（前書き）

もし読んでいた方がいたらごめんたさい。

赴任

「赴任」

地域課長、と書かかれたプレートが置かれた席に座った制服の男性が、書類を雑に机に置いた。

「氏名、今島人護・・・」

階級は巡査部長 年齢27歳

元警備部機動隊隊員・・・間違いないな？」

「はい、今島人護巡査部長、本日付けで興宮警察署地域課離見沢駐在所に赴任しました。」

目の前の男性に敬礼する 男性はこの署の地域課長、つまり、俺、今島人護の直属の上司だ。

「それにしても、物好きだな」

「はあ、物好きと言いますと？」

俺が、真顔で聞くと、課長は、君はばかだねといったげな顔になった。

「だって今島君、警備部のエリート警官の機動隊員が駐在警官希望だなんて、いやね、機動隊員の異動希望で爆発物処理班か、警備二課の警護係ぐらいかと思っていたから」

おい課長何勝手に決めつける、確かに同僚には、数年前に設立された要人警護専門の警護係のSP（セキリティーポリスの略）を希望した者もいたか・・・爆発物処理班は・・・いったけな？」

「それに駐在って見た目より楽じゃないよ」いつも一人で仕事しなきゃいけないし、一日に何回もパトロールしにいかなきゃいけないし、休みは少ない、しかも町会の集会とかにも出席しなきゃいけない、もちろん近所付き合いにも気をつけなくちゃならないし」

確かに駐在警官は楽じゃないことは自分が知っている。

「さて、今島君さっそく離見沢村にいつてもらう

・・・あ、来た、来た。」 振り返ると地域課に一人の中年警官が

入ってき。

「今島君、前任者西君だ

・・・西君、彼が後任者の今島人護君だ、今島君、今日は西君について村の有力者の所に挨拶回りにいってくれ。」

「有力者と言いますと村長か町会の役員とか、神社か寺の所有者とかですか」 だいたい村の有力者つてのはこういう類が多い。

「当たってるけど外れてるかな・・・西君」

課長が残念そうな顔で隣の西さんと顔を合わせた。

「今島君だっけ、君が言っていることも間違いじゃないけど・・・今島君、雛見沢村は大昔から御三家という三つの一族が村を仕切っているんだ。」

西さんの説明によると、

代々、村長の家柄の公由家、大昔、村役人だった園崎家、村の守り神

「オヤシロさま」を奉った神社の神主一族の古手家が御三家と呼ばれ大きな権力を振るったが、戦時中、古手家の親族はほとんど亡くなり、最後に残った神主一家も四年前に頭首が急死し、妻がすぐに入水自殺、今は一人娘の古手梨花が残るだけで、公由家も昔程権力はなくなり、代わりに戦後の闇市で勢力を拡大した園崎家によって独裁状態らしい。

ちなみに興宮を中心に園崎家親族経営の企業や飲酒店が数多くあり、広域暴力団園崎組の本部があり。

しかも、県議員と市議員にさらに弁護士にまで園崎家の人間がいるので警察はうかつに手を出せないらしい。

「ところでだ今島君、君は雛見沢で過去四年間続く事件のことは知っているな雛見沢連続怪死事件だ。」課長が今までにない神秘的な顔になったので場の空気が変わった。 「はい、存知上げています。

「雛見沢連続怪死事件

県警内ではそう呼ばれている事件。

きっかけは、数年前に遡る。当時、建設省は火力発電に次ぐ発電

と貯水確保のため各地でダムを建設していた。離見沢にもダム計画が持ち上がった。

国は村民に立ち退きを要求したが、黙って従うばかりはいない。村民達は反対市民団体を組織して徹底的に対抗し警備に当たっていた機動隊と良く衝突していた。

5年前の6月にダム工事監督が作業員数名に惨殺されしかも、遺体をバラバラにして逃走、主犯格のみが現在も逃走している。その翌年の6月、離見沢の村人でありながら、ダムの推進派のリーダー格だった夫婦が白川公園の崖から転落、夫の遺体は発見されたが、妻の遺体は見つからなかった。

さらに翌年の6月、古手神社の神主が急病で急死し妻が入水自殺を図ったが遺体は発見されなかった。

そして、去年の6月、ダム推進派リーダー夫婦の弟の妻が麻薬中毒者に襲われ死亡した。

「わかつているなら、長々と言わないが、例年通りなら今年も何起こる、6月まであと1ヶ月だ、君は元機動隊員だ、いくなれば、警備のプロだ、機動隊の経験を生かして村をしっかりと警備しろ！怪しい奴は村人でも職質かけろ！いいな」

「了解、尽力します。」

課長に敬礼、地域課を後にした。

赴任（後書き）

遅くなりすいません。

TIPS面白い人

難見沢駐在警官が出ていって数分後、地域課に一人の老刑事がやって来た。

「大石さん！！どうしました、一課との内打ち合わせは1時間後だったよね。」

「いゝやゝね、新任の駐在さんが来たって聴きましてねゝしかも若い人だっというから見に来た訳ですよ」

老刑事の名は大石蔵人、興宮署捜査一課の古参刑事だ。「残念ゝさつきまでここにいたんですけど・・・」

「ありやゝ残念ゝじゃ後で駐在所にいつてみますか。んっふっふゝで、新しい駐在さんはどんな人なんて名前の人なんです。」

「下の名前がまた変わってましてね、今島人護・・・人に護衛の護と書いてジンゴで読みましてね。」「今島・・・人護・・・どこかで聞いたことあるような・・・」

「ほらゝ大石さん去年の全国警察官剣道大会個人戦で7位になって、二ヶ月後の全日本都道府県警射撃大会で8位、県警の逮捕術大会で3位、柔道大会で6位って記録を叩き出した機動隊員ですよ。」

「あゝいましたねゝそんな超人のエリート機動隊員確か剣道七段、柔道五段、逮捕術六段射撃は自衛隊特殊部隊なみの・・・それにしてもなんでそんなエリート君が駐在なんですよゝ」

「どうも、本人が強く希望したらしいですよ。」

「ほゝなおいっそう面白そうですねー。」

これは、また面白い人が来たなゝと思った大石蔵人だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9282h/>

雛見沢駐在所物語

2010年10月9日11時56分発行